



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
佐々木 晃成
(電気科3年)

新聞全国

他都府県の部員と交流 紙面審査賞で初の最優秀

新聞局は8月1〜3日に岐阜県中津川市の東美濃ふれあいセンターで行なわれた第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会新聞部門に参加した。全国から134校の生徒約300人が集まった。大会テーマは「集え青き春 漕ぎ出せ知の筏 水面煌めく 清流の国へ」。菅原照太君(電3)と村岡良祐君(化2)が取材した内容を紹介

大会初日は16時から生徒交流会で1班6人の交流新聞制作

作班に分かれて自己紹介と自校新聞の交換をした。次に岐阜県の文化や観光名所、特産品のクイズが出題され班員と親睦を深めた。16時50分から18時まで班別編集会議を行ない、新聞制作の役割を分担。2日目は9時から開会式と第28回全国高校新聞年間紙面



最優秀賞の賞状を受け取る村岡君

食を楽しめる明知鉄道

岩村城下 朝ドラの舞台に

Cコースでは4つの班がテーマ「岩村を堪能する」のもと、明知鉄道の極楽駅と岩村城下町を取材した。

明知鉄道に恵那駅から乗車し、極楽駅で明知鉄道株式会社社営業課長補佐の伊藤温子さんから明知鉄道の歴史や特色

審査賞の表彰式が行なわれ、旭工は初めて最高賞の最優秀賞を受賞。最優秀賞は全国から5校が選ばれた。次に滋賀県立虎姫高校の鈴木真由美先生から「交流新聞作成と取材活動のポイント」の講話を聞き、10時50分から班別編集会議で自分の役割や取材場所などの最終確認。12〜16時まで12コースに分かれて取材を行ない、会場に戻ってから18時まで交流新聞制作をした。

3日目は午前中に交流新聞制作し、午後からは生徒活動発表が行なわれ、長崎日本大学高校・中学校と崇徳高校(広島県)の2校が活動内容や工夫している点を発表した。その後は石川県立金沢泉丘高校の谷口豊先生から交流新聞の講評を受けた。閉会式後に研修取材で馬籠宿を取材した。

トがある。食堂車はきのこ列車やじねんじょ列車などがあり、季節の食を楽しめる。伊藤さんは「極楽駅は2008年に開業した。極楽駅までの便券切符には『極楽行き』と印字され、それがおもしろいと話題になり、観光客が増え始めた。食堂車では一日に80食を提供するので地元の飲食店に料理を提供してもらうのが大変」と語った。

明知鉄道では鉄カードを発行している。80社以上の鉄道会社に参加し、カード1枚ごとに地方ローカル線の車体や風景の写真が掲載され、鉄道グッズを買うとおまけとしてもらうことができる。

岩村城下町では、岩村歴史資料館や当時の建物が現存している木村邸などを訪れた。岩村歴史資料館には岩村城の様々な資料が展示されていた。岩村城は遠山景朝が鎌倉時代に築いた山城で、日本で一番標高が高い場所に立つ。戦国時代には遠山景朝の子孫が城主だったが、織田信長と武田勝頼の争奪戦に巻き込まれ最終的に松平家が城主となった。城下町の建物は450年前から現代まで保存されている。



対応する松浦軒の販売員

江戸時代には各地から優秀な商人を集めて大きく栄え、「商人・職人の町」と呼ばれた。岩村藩の財政を支えた木村邸や260年前に染物屋を営んでいた土佐屋などが残されており、無料で見学できる。

特産品としてカステラや五平餅も有名だ。松浦軒本店は寛政8年から、ポルトガルから伝わった卵や砂糖、小麦粉はちみつだけを使う製法でカステラを作っている。そのため、すっきりした味わいだ。岩村城下町で20年以上ガイドを務めている若森慶隆さんは「町並みは鎌倉時代から現代まで形を変えずに残され、重要伝統的建造物保存地域として登録されているものの中

では珍しく今でも多くの人が住んでいる。岩村城下町は連続テレビ小説『半沢、青い。』の舞台にもなったので、多くの人に足を運んでほしい」と話した。(電3菅原)

養液栽培導入の阿部農園

ベッドも製作 協和ダンボール

Hコースでは「恵那の地場産業」がテーマで、すまいるふぁーむ阿部農園と協和ダンボール株式会社取材した。阿部農園は創業22年、6〜11月にトマトを60〜70t、11〜5月にイチゴを5t出荷し、農園で直売所やイチゴ狩りも

行なっている。農閑期には労働力が余らないように学校給食用のネギを栽培している。農園代表の阿部真奈美さんはアパレルショップで働いていたが、子育ての合間にトマト農園の手伝いをしたのがきっかけで農業を始めた。



阿部農園ではトマトを1株ずつポットに入れ、土壌から隔離して養液栽培をする3S栽培を導入。水や肥料の量を調節しやすく、作物が病気になるっても被害が小規模ですむ。栽培の工夫点は農薬の量をできる限り減らして光合成細菌やミネラルなどの自然の力を利用して栽培すること。

阿部さんは「イチゴ狩りで客がおいしく食べているのを見るのが楽しい。暑い中での作業が採取法を説明する従業員が多いので大変だが、トマトはより多く、イチゴはよりおいしくなるよう栽培したい。客を笑顔にするには自分たちが笑顔で取り組めるのが大事だと思う」と語った。

協和ダンボール株式会社はダンボール製品のベッドやシート、玩具などの販売をし、16社の子会社に梱包や配送などのサポートをしている。ダンボール製品を作る工程で出てくる切れ端や家庭から出る古紙を再利用し資源の無駄を省いている。ダンボールに印刷するインクは地球環境に良いボタニカルインクを使用。工場ではベルトコンベアで原紙を運んでダンボールを作り、

折り目や切れ込みを入れている。動きやすい環境にするために、出産後仕事に復帰しやすいように短時間勤務を導入。従業員の松浦玲子さんは「客や地域、社会全体にダンボールに対して感動してもらうことをモットーにしている。ダンボール業界は担い手が少なくなっている。子どもときからダンボールに触れてもらい、従業員を増やしたい」と語った。(化2村岡)

私は夏休みに新聞の全国大会に3年生の先輩と2人で参加した。一番楽しかったのは取材だ。班別編集会議でレイアウトや記事の内容を決めてから質問を考えた。他県の人と考えた質問には私では考えつかない視点があった▼「すまいるふぁーむ阿部農園」の歴史、トマトやイチゴなどの栽培方法や工夫についての質問が大事だと分かり、私の視野が広がった。トマト収穫体験ではハサミでヘタのすぐ上をすれすれに切るように言われた。トマトを押さえた反動でハサミが思うように使えず、かなり時間がかかった。切ったヘタで取材ノートが汚れたときは悲しかった。採ったトマトを食べるととても甘味が強く、私が食べた今までの中では一番おいしいトマトだった▼私は阿部農園の方に聞いた栽培方法や工夫点について記事を書いた。栽培するとき光合成細菌や土壌の中にあるミネラルなどの自然の力を利用すると安全でおいしいものができると分かった▼3日目の午前中に見出しを考え、写真を選んで新聞を完成させた。提出の締め切り時間ギリギリまで皆で協力したので安心感や達成感が大きかった。午後から講評を受けた。私の班は取材内容を深く考えて農園について詳細に書けているとほめられてとてもうれしかった▼今回の全国大会で取材の質問の深さや広い視野を持つ大切さを実感した。学んだことを生かし、これからも新聞制作を頑張る。(化2村岡)



研修取材

島崎藤村の出身地 馬籠宿

脇本陣の「上段の間」を復元

第48回全国高等学校総合文化祭新聞部門の閉会式後に、研修取材で中津川市の馬籠宿（まごめじゅく）に行った。藤村記念館や馬籠脇本陣史料館で島崎藤村の生涯や馬籠宿の歴史を学び、五平餅や信州そばなどを提供している近江屋で馬籠の名物を堪能した。馬籠宿で取材したことを紹介する。

馬籠宿は作家の島崎藤村の出身地で江戸の日本橋から京都までをつなぐ中山道の43番目の宿場町。石畳が敷かれた坂道の両脇には土産物屋や食事処が立ち並び、名物の五平餅や信州そばを堪能できる。坂を上り切ると馬籠陣場上展

望台に着き、木曾の山林や雄大な山々を見ることが出来る。馬籠宿には所要所所に馬籠宿案内人の会の方々がいて、藤村記念館の前では吉田真さんと富田努さんが馬籠宿の歴史について写真を使って解説してくれていた。



急こう配の中山道の両側に復元された宿場町の馬籠宿

馬籠脇本陣史料館では案内人の会の榎啓彰（たてひろあき）さんから説明を聞いた。馬籠宿には本陣と脇本陣があったが、現在は大火により焼失してしまっ

た。本陣、脇本陣は江戸時代に大名や公家、幕府の役人など高貴な身分の人が宿泊や休憩を行なうために使用された。史料館には明治28年の大火で焼失した脇本陣の上段の間を復元してあり、当時使用されていた家財や家具などを展示している。他に当時の生活様式や木曾五木と言われる尾張藩によって伐採が禁止され



大火について説明する榎さん



伐採が禁止された木曾五木

た木曾谷の木についても紹介されている。木曾五木は伐採過多で山が荒廃したため、木曾の山林を管理していた尾張藩が保護をした。その森林保護政策は「木を一本切ると、首が一つ飛ぶ」と言われるほどの厳しい政策だった。その結果、美しい木曾の山林を取り戻すことができ、今でもその姿を保っている。

馬籠宿の町並みは明治と大正時代に発生した火災により、石畳と脇本陣の土台を除いて当時の家屋は焼失している。江戸時代後期から大正時代にかけて4度の大火に見舞われていて、安政5年と万延元年、明治28年と大正4年に起きている。脇本陣が焼失したのは明治28年の大火で、78軒が被害にあった。

馬籠宿がある中山道は、江

手作りの五平餅

心地良く過ごせる接客を

近江屋



団子状の五平餅を食べる村岡君



五平餅の作り方を説明する古畑明さん

馬籠宿で五平餅（もち）を販売している近江屋の古畑明さんに取材した。近江屋は昭和46年に開業し今年で53年目。古畑さんの義母が店主を務め、奥さんとアルバイトの4人で店を切り盛りしている。五平餅（110円）の他に信州そば（650〜700円）とかき水（400〜500円）などを販売している。五平餅は古畑さんの家の棚田で収穫したうるち米を炊いて、杵（きね）でこねて米粒の形を残す「平殺し」にし、砂糖と醤油で味を付け、クルミとゴマを使って香ばしさを演出している。五平餅は小判状の平べったい形が多いが、近江屋は団子状で一串3個となっている。自家製米を使い、串も義父の手作りのため、他店では150円だが近江屋では110円と安価だ。食べてみると「弾力があり米粒が感じられ、ゴマの風味がきいておいしかった」と村岡良祐君（化2）は語った。古畑さんは「五平餅は食べやすい大きさにするように心掛けています。商品は一つ一つ丁寧に作り、一番おいしい状態で客に出すようにこだわっている」と笑顔で話した。

信州そばは長野県飯田市の製麺所のもので使用し、つゆは近江屋オリジナルでだしがきいた少し濃いめのものだ。信州そばを使うのは、馬籠宿は2005年まで長野県だったからだ。古畑さんは「人手が少なくて大変」と話しながらも「客にまた来てもらうためによい接客で心地良く過ごしてもらえようとしている」と語った。

戸時代に宮家の娘が將軍家に嫁ぐ際によく用いられていたため「姫街道」とも呼ばれていた。中山道は東海道と比べあまり整備されておらず、東海道の方が安全だ。それでも中山道を使うのは東海道は縁起が悪いということがあった。諸説あるが、東海道の静岡県には薩埵（さつた）峠がある。とわれている。

「夜明け前」は父がモデル

時代変化の苦悩を描写

島崎藤村は1872年に馬籠で生まれた作家だ。1881年「初恋」が収められた「若菜集」に9歳で学問のために上京。近



「夜明け前」の説明をする勝岡さん

た仙台で書いた。1906年に最初の長編である「破戒」を自費出版。1929年から7年間をかけて父がモデルの「夜明け前」を完成させた。時代が移り変わる勢いを感じさせる中山道の重要地点や木曾馬籠宿の本陣、庄屋、問屋を営んだ主人公を通して、激しく揺れ動いた明治維新前後の時代の変化の苦悩を交えて書いた作品だ。

日本遺産 藤村記念館
原稿や遺愛品を所蔵
「初恋」のリンゴの木も



リンゴの木の説明をする齋藤さん

藤村記念館は島崎藤村の生家跡に建てられ、木曾谷の最南端にあり文化庁の日本遺産に認定されている。明治28年の大火で本陣、庄屋、問屋を兼ねた建物は焼失したが、受けて1

火災を免れた藤村の祖父母の隠居所や「初恋」のモチーフとなったリンゴの木が現存している。藤村記念館の事務局長齋藤裕さんが案内をしてくれた。藤村記念館は藤村の長男である楠雄から資料の寄贈を受けて1

「夜明け前」は父がモデル
時代変化の苦悩を描写
島崎藤村は1872年に馬籠で生まれた作家だ。1881年「初恋」が収められた「若菜集」に9歳で学問のために上京。近

た仙台で書いた。1906年に最初の長編である「破戒」を自費出版。1929年から7年間をかけて父がモデルの「夜明け前」を完成させた。時代が移り変わる勢いを感じさせる中山道の重要地点や木曾馬籠宿の本陣、庄屋、問屋を営んだ主人公を通して、激しく揺れ動いた明治維新前後の時代の変化の苦悩を交えて書いた作品だ。

馬籠陣場上展望台には「夜明け前」の原稿の1枚目「木曾路はすべて山の中である（以下略）」を写した石碑が建っており、中津川ボランティアガイドの勝岡真さんが馬籠脇本陣史料館の写